

令和2年度 第4回下野市教育委員会定例会議事録

日 時 令和2年7月16日(火) 午後1時～午後5時

会 場 下野市役所3階 303会議室

出席委員 教 育 長 池澤 勤 職務代理者 永山 伸一
委 員 熊田 裕子 委 員 石嶋 和夫
委 員 佐間田 香

出席職員 教育次長 清水 光則
教育総務課長 近藤 善昭
学校教育課長 田澤 孝一
生涯学習文化課長 篠崎 正代
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 若林 毅
教育総務課長補佐 神田 晃
学校教育課主幹兼指導主事 土田 礼巳
学校教育課主幹兼指導主事 松川 博美
学校教育課主幹兼指導主事 水本 百合子

公開・非公開の別 公開(一部非公開)

傍聴者 5 人

報道機関 0 人

議事録(概要)作成年月日 令和2年8月20日

議 題

議案第25号 令和3年度使用教科用図書の採択について

協議事項

- (1) 令和2年第2回市議会定例会の報告について
- (2) 下野市立南河内小中学校建設工事の契約について
- (3) 下野市部活動の方針 修正について
- (4) 修学旅行について
- (5) 運動会の実施について
- (6) 文化祭の実施について

1. 開会
- (池澤教育長) 2. 教育長挨拶及び報告
- 6月15日から本日までの職務について報告させていただく。
- ・6月15日から22日にかけて、市内小中学校の校長・教頭の当初面談を行った。
 - ・6月18日、第2回定例議会が閉会した。詳細については、この後報告させていただく。
 - ・6月23日、市の新型コロナウイルス対策定例報告会が開催された。
 - ・6月24日、定例校長会の後、第11回臨時校長会が開催され、児童・生徒、教職員に感染者が確認された場合の対応について、確認を行った。
 - ・6月30日、臨時県市町教育長会議が行われ、感染者発生時の県と市町の共同体制について共通理解を図った。
 - ・7月8日、臨時議会が開催され、南河内小中学校建設工事の契約の承認を得た。
 - ・7月10日、第12回臨時校長会が開催され、新型コロナウイルスの対応マニュアルの確認を行った。
 - ・7月11日、市の新型コロナウイルス対策本部会議が開催された。
- 以上の報告内容について、質疑はあるか。(特になし)
3. 議事録署名人の選任 永山委員及び石嶋委員を指名
4. 前回議事録の承認について、事務局より説明をお願いします。
- (神田課長補佐) 第3回教育委員会定例会の議事録について、修正箇所の説明を行う。
- (池澤教育長) 議事録はこのとおり承認とする。
5. 議題
- (池澤教育長) 議案第25号 令和3年度使用教科用図書採択について、説明を求める。
- (田澤学校教育課長) 【説明要旨】
- 令和2年6月2日付けで、令和3年度に使用する小中学校教科用図書、学校教育法附則第9条に規定する小中学校特別支援学級用教科用図書の選定について、下野市立小中学校教科用図書選定委員会へ諮問を行ったが、本日、当該委員会より選定結果の答申があったので、その採択について提案するものである。
- 詳細については、土田指導主事より説明を行う。
- (土田指導主事) 【説明要旨】
- 資料「令和2年度使用教科用図書調査報告書」に基づき選定の概要説明を行う。
- 特別支援学級用教科用図書については、変更のなかった図書の説明を省かせていただき、新しく選定された図書のみ説明する。
- まず、小学校特別支援学級用教科用図書について報告を行う。

【小学校特別支援学級用教科用図書】

○英語「わくわくチャレンジえほん えいごめいろ24」

(チャイルド本社)

- ・迷路遊びをしながら身近な挨拶や英単語を楽しく学ぶことができ、英語にあまり馴染みのない児童にも、興味・関心をもたせることができる。

○道徳「おやくそくえほん はじめての『よのなかルールブック』」

(日本図書センター)

- ・身に付けるべき生活習慣やマナーが全て平仮名で簡潔に書かれており、「なぜそうするのか」という理由も示されているので、子供も納得した上で身に付けることができる。

続けて、中学校特別支援学級用教科用図書について説明を行う。

【中学校特別支援学級用教科用図書】

○道徳「もうモヤモヤしない！気持ちの伝え方」(日本図書センター)

- ・自他の感情を考えたり、言葉にしたりすることについてイラストやキーワードが場面ごとに分かりやすく取り上げられており、人との関わりを考える上で、道徳や日頃の生活で活用できる。

協議では、小学校用英語で選定された図書については、視覚的にも分かりやすいという意見が出された。

また、小・中学校道徳で選定された図書については、子どもが納得しながら行動に移せるよう支援していくことが大切であり、よく配慮して選定されているという意見が出された。

(池澤教育長)

質疑等はあるか。

(佐間田委員)

資料の見方を教えていただきたい。

(池澤教育長)

小中学校特別支援学級用教科用図書の報告書の見方の説明を求める。

(土田指導主事)

1ページから9ページまでが小学校、10ページ以降が中学校となっている。小学校については、1ページと2ページに下野市で選定されたものが載っており、2ページの最後に青字で書かれているものが、今年度新しく選定したものである。また、3ページ以降にそれぞれの教科用図書の説明があり、9ページに青字で書かれているものは、今年度新しく選定したものである。

(石嶋委員)

今まで選定されていたが、絶版になってしまったものはあるか。

(土田指導主事)

報告書の1ページ左下にある「学研 レインボーことば辞典」が、廃版により供給不能となっているため、一覧から削除させていただいた。

(石嶋委員)

実線で消してある部分か。

(土田指導主事)

そのとおりである。廃版となったのは、この1冊のみである。

(池澤教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

(土田指導主事)

続いて中学校教科用図書「国語」と「書写」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「国語」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

- ・語彙を増やす工夫、現代社会における諸課題を扱った教材が多く掲載されている。
- ・多彩な読書案内が掲載されている。

○『三省堂』の教科書について

- ・図表が多く用いられ視覚的に分かりやすいよう工夫されている。
- ・様々な分野の題材が扱われている。
- ・「読むこと」の教材のポイントがわかりやすくまとめられている。

○『教育出版』の教科書について

- ・学習の見通しをもちやすい。
- ・持続可能な開発目標との関連が意識されている。
- ・作者や著者についての関連資料が豊富である。

○『光村図書』の教科書について

- ・学習過程が明確に示されている。
- ・情報の活用方法について詳しく述べられている。
- ・課題解決のための話し合い方について詳しく述べられている。

以上の報告を受けて、『三省堂』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・様々な分野の題材が扱われており、生徒の視野を広げることが期待される。
- ・学習活動に取り組む上での手順・方法等が示されており、活動を支援できるよう配慮されている。
- ・図表・写真・絵が効果的に配置され、生徒の読解の助けとなるとともに、興味・関心を高められることが期待される。

【中学校教科用図書「書写」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

- ・基本点画が硬筆と併せて身につけられるよう配慮されている。
- ・書写の用語を用いた話し合い活動が設定されている。
- ・日常生活への活用例が豊富である。

○『三省堂』の教科書について

- ・毛筆での学習を硬筆に生かすことが重視されている。
- ・書体の使い分けについて考えさせている。
- ・単元内の構成が明確でわかりやすい。

○『教育出版』の教科書について

- ・学習の見通しをもちやすい構成になっている。
- ・文字文化への興味をもたせる工夫がされている。
- ・古典文学を硬筆の題材として取り上げており、古典の世界に親しめるよう配慮されている。

○『光村図書』の教科書について

- ・学習の見通しをもちやすい構成になっている。
- ・学習した内容を生活に生かす具体例が示されている。
- ・ユニバーサルデザイン書体についてのコラムが掲載されている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・単元の中に話し合い活動が設定されており、生徒が主体的に学習活動へ取り組めるように構成されている。
- ・硬筆、毛筆をバランスよく学習でき、その後の日常生活への活用までの流れがイメージしやすい。

国語についての協議では、幅広い分野から教材を取り入れることの重要性、各社とも言葉を大切にしながら「対話的な学び」が成り立つよう学習活動が工夫されていることが挙げられた。また、「竹取物語」の現代語訳については、出版社によって用いられている言葉に違いが見られるとの意見も出た。

書写については、整った文字を書くことだけが取り上げられているのではなく、話し合いの場面が設けられていることが話題となった。

(池澤教育長)

質疑等はあるか。

(熊田委員)

書写の毛筆のところで、『東京書籍』だけが擬態語で運筆の指導をしており、書きやすく指導できるようになっていると感じたが、そのことについて教科用図書選定委員会で指摘はなかったか。

(土田指導主事)

教科用図書選定委員会では、擬態語についての意見は出なかったが、調査員はその点も確認しており、小学校からのつながりがスムーズにいくのではないかという話題が出ていた。

(池澤教育長)

他に質疑等はあるか。

(永山委員)

では、調査研究報告を受けて、委員の皆様からご意見をいただきたい。

国語の教科書は、どの教科書でも書籍の紹介がされている。各社共通して、子どもの読書活動の助けになると感じた。その中でも『三省堂』は、各単元が終わるごとに3冊から4冊に絞り込んだ本の紹介があり、本が選びやすいと思った。どの教科書も書籍の紹介はあるが、1箇所にとまったり載っていたり、単元によって載せ方が異なっていたりするので、『三省堂』のような本の紹介の仕方は、上手な方法であるという印象を受けた。

(池澤教育長)

他に意見等はあるか。

(石嶋委員)

各社ともかなり工夫されている。万能な教科書はないと思うので、調査員である学校の先生方が、自分たちが対応している子どもたちに合うものを考えて選定している。受け持ちがなくて教科書を見るのと、担当をしていて見るのでは違うと思うので、子どもたちと接している先生が見て選ぶほうが良いということを感じた。

(池澤教育長)

他に意見はあるか。

(熊田委員)

本の紹介については、たくさん紹介されていたほうが良いというイメー

ジがあったが、『三省堂』は絞って紹介してある点が良いという永山委員の意見を伺って、その見方に、なるほどと思った。

また書写について、『東京書籍』は、最後に活用ブックが載っているところが良いと思った。他の教科書にも載っているが、『東京書籍』は内容が丁寧で良い。

(池澤教育長) 書写について、手本の見やすさに関する意見等はあるか。

(石嶋委員) それぞれの会社で工夫がされており、選ぶのが難しいと感じた。

(池澤教育長) 書写の決め手となった点の説明を求める。

(土田指導主事) 調査員が重視したことの一つに、自分たちの日常生活に、学んだことを活かせるかという点がある。手紙の書き方など、書写の学習から離れて自分たちの普段の学習に使える資料が豊富であることから、推薦されることとなった。

(永山委員) 硬筆については、たくさん書ける場所がある『光村図書』が良いと思った。

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「社会」と「地図」の選定結果について報告を行う。「社会」については、「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」に分かれているため、それぞれについて説明を行う。

【中学校教科用図書「地理的分野」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・言語活動を通して、「見方・考え方」を働かせながら自らの考えを広げ深めるための活動を設定している。

○『教育出版』の教科書について

・学習内容の程度・選択・取扱いについて配慮されている。

○『帝国書院』の教科書について

・わが国の国土及び世界の諸地域を理解し、調べまとめる技能を身に付けられるよう工夫されている。

○『日本文教出版』の教科書について

・課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫されている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

・思考力や判断力の育成を中心に学習を深められるよう工夫されている。

・グラフや統計資料などの資料の取扱いが工夫されている。

【中学校教科用図書「歴史的分野」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を育めるよう工夫されている。

- 『教育出版』の教科書について
 - ・世界の歴史を背景に我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解できるよう工夫されている。
- 『帝国書院』の教科書について
 - ・世界の動きを中心に各時代の日本の出来事を結び付け、見通しをもちながら学習が進められるよう工夫されている。
- 『山川出版社』の教科書について
 - ・高校で取り扱う資料を平易にした形で掲載するなど、高校での歴史学習につながるよう配慮されている。
- 『日本文教出版』の教科書について
 - ・小学校での学習内容を紹介しながら中学校での学習内容につなげる工夫がされている。
- 『育鵬社』の教科書について
 - ・世界の歴史を背景に日本の各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けられるよう工夫されている。
- 『学び舎』の教科書について
 - ・より良い社会の実現を視野に、課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養えるよう工夫されている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・着眼する各歴史的事象が当時の社会にどのように影響を与えたのかという視点で本文が構成され、それに基づく資料の掲載に工夫が見られる。

【中学校教科用図書「公民的分野」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

- 『東京書籍』の教科書について
 - ・単元を貫く「探究課題」を設定し、単元を通して「見方・考え方」を働かせながら学習が展開できるよう工夫されている。
- 『教育出版』の教科書について
 - ・小学校、他分野、他教科との関連を示す「関連マーク」を付け、学習の連携や振り返りが図れるよう工夫されている。
- 『帝国書院』の教科書について
 - ・生徒に身近な事例や資料を取り扱った見開きの導入資料により、生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。
- 『日本文教出版』の教科書について
 - ・「見方・考え方」コーナーの活用により、個人と社会の関わりを中心に学びを深められるよう工夫されている。
- 『自由社』の教科書について
 - ・課題について複数の立場や意見を踏まえて判断し、説明・議論する力を育むための学習活動が工夫されている。
- 『育鵬社』の教科書について

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進をサポートするコーナーが設けられている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・単元を貫く「探究課題」の設定から解決まで、「問い」を軸に構造化されている。
- ・探究課題の解決のために「見方・考え方」を働かせながら学習が進められるよう工夫されている。

【中学校教科用図書「地図」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

- 『東京書籍』の教科書について
 - ・生徒の発達段階に応じて資料提示の方法が工夫されている。
- 『帝国書院』の教科書について
 - ・世界の諸地域について、その地域の特色を生徒がとらえやすいように工夫されている。

以上の報告を受けて、『帝国書院』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・社会的な見方・考え方を働かせる「問い」を設け、主体的に学習することで、資料活用能力が高まるような配慮がされている。

協議では、小学校での既習事項が記載されている教科書があり、既習事項を想起しやすいこと、資料が豊富で資料集としても十分活用できること、同じ分野でも各社での扱いにそれぞれ工夫が見られるなどの意見が出された。歴史的事象についてそれぞれの立場から記載されているものや、各ページに全体の年表の掲載がある教科書が特に話題となった。

(池澤教育長)

質疑等はあるか。

(石嶋委員)

「教科書で教える」、「教科書を教える」を両方バランス良くやらなければならないと思うが、歴史と公民の教科書を読んでみて、「教科書を教える」ということに力を入れすぎていて、「教科書で教える」という部分が足りないと思う教科書があった。

また、地理も歴史も公民も、「なぜ」が重要だと思う。学習課題やねらいについては、「なぜ」という部分を調べて考えて話し合っまとめることが、社会科では重要であると考えている。全ての教科書会社において、「どのように」が多い。「どのように」を調べても、なぜそのようにしているのかということを考えさせないと、見方・考え方・思考は身に付かないと思う。時間が限られているせいか、「どのように」という学習課題やねらいが多いので残念であった。『日本文教出版』は、「なぜ」が多かったので、学習課題でいうと、『日本文教出版』が気に入っていた。

(池澤教育長)

ただいまの石嶋委員の意見について、調査委員会から意見は出された

か。

(土田指導主事) 調査委員会のほうで、調査員が調査研究をするにあたって重視した点についてであるが、資料の豊富さや、小学校からの接続で子どもたちが無理なく学習に入れること、そして、問を軸に学習を進められるということを中心にしたという報告であった。

(池澤教育長) 調査委員会の中では、教え方における教科書の使いやすさについての意見は出たか。

(土田指導主事) 調査委員会の報告書あるいは当日の報告で挙がっていたものであるが、各単元での課題設定で、子どもたちがいかに主体的に課題を設定できるか、というところを中心に研究したということである。具体的にはどの教科書会社においても、このことについては意識しているという捉え方で調査員は調査にあたっており、特にこの教科書がということは、推薦を受けた『東京書籍』以外では出ていない。

(池澤教育長) このような視点で選定を行っているということが確認できた。
他に質疑等はあるか。

(熊田委員) 歴史は、社会全体において、皆さん思い入れがあると思うが、なぜ歴史を学ぶのかというところを最初に入れている会社と入れていない会社がある。子どもに主体的に学ばせるには、そこに入れておかないという方法もあるかもしれないが、歴史を学ぶ意味が一言でも書いてある教科書が良いと思う。そのことについて委員会や調査員から指摘はあったか。

(土田指導主事) 調査員からは、主体的に学ぶということは大事となってくるということ、また、なぜ学ぶかということについては、なぜこのようなことが起こったのかという原因、あるいはその社会的背景について自分で学んでいくというところに重点を置いたということである。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。

(佐間田委員) 教科書を拝見して、『東京書籍』が良いと思っていた。視覚的にも、苦手な子どもも入りやすく、子どもが引きつけられるような内容があった。まとめもあるので、テストの時に役立つと思った。

(池澤教育長) 協議としてご意見等はあるか。

(永山委員) バランスで見ると、『東京書籍』が良かった印象を受けた。教科書を開いた時に、年表が各ページに付いているので、どこを勉強しているのか一目瞭然で、チェック&トライを読みながらポイントを押さえていくという部分で、バランスが良いと思った。

資料の出し方として工夫がされていると思ったのは、『帝国書院』である。資料の意味を読み解くということについて、子どもたちに深く考えさせるというところで、例えば、日本の敗戦の時にどう考えたかということについて、3人の意見が載っている。また、満州に渡った人たちにはどんな人がいたのだろうかというような資料もあった。満州でといっても、そこに行った人たちがどこからどう出たのかということころは、私たちにも分からないような時代のことなので、具体的に歴史の中に人の顔が見えるような、それが仮に現代のことであって、その場に居たらどうなのだろうかということころまで掘り下げて感じられるような資料の載せ方は、工夫していて面白いという印象を受けた。

(池澤教育長)

他に意見はあるか。

(熊田委員)

『東京書籍』は、全体的なバランスと、歴史、地理、公民のつながりもあって、分かりやすく良いと思った。

『山川出版社』の歴史の教科書は、読み物のような感じで、キャッチーな題がついていて、読んでいたら面白いのではないかと思った。歴史が好きになるような教科書で、歴史がとても好きな方が作ったような印象がある。高校の教科書を平易に直したという説明に、なるほどと思ったが、教科書として考えると、面白い読み物というよりは、知識や資料が載っている方が良いと感じた。

(池澤教育長)

他に意見はあるか。

(佐間田委員)

今使っている教科書からの連続と考えると、子どもが小学校にいて、今年度教科書が変わったが、初めのうちは戸惑いがあったようなので、スムーズに入れれば良いと思う。

(土田指導主事)

続いて中学校教科用図書「数学」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「数学」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・各章の導入において、日常生活と結びついた身近な場面が設定されている。

○『大日本図書』の教科書について

・学習したことを身近な場面で活用したり、探究したりする問題が多く扱われており、社会生活とのつながりが感じられるよう工夫されている。

○『学校図書』の教科書について

・話し合いをベースにして、生徒が問題を発見し、解決に向けて見通しを立て、学習を進めることができるよう工夫されている。

○『教育出版』の教科書について

・ページの脚注に、既習内容や問題解決のプロセスが示されており、生徒が基礎的・基本的な技能を習得できるよう工夫されている。

○『啓林館』の教科書について

・問題を解決する手順を3段階に分けて例示することで、生徒が主体的・対話的な学習に取り組めるよう配慮されている。

○『数研出版』の教科書について

・各単元の初めに単元に関する振り返りをさせることで、既習内容との関わりが確認できるよう配慮されている。

○『日本文教出版』の教科書について

・既習事項と関連付けて考えることで、数学的な処理の仕方が考え出されるよう工夫されている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

・日常生活などの身近な場面における導入課題を設けており、生徒の興

味・関心を高め、学ぶ有用性を感じながら数学的活動に取り組めるように配慮されている。

協議においては、日常生活における事象を多く取り上げている点や、「なぜこの内容を学ぶのか」ということが記されていることの良さが挙げられた。また、定着には復習が大切であり、復習に活用できるよう構成が工夫されているのではないかという意見が出された。

- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (石嶋委員) 今回は、各教科書の学習課題を中心に、受け止めやすいか、分かりやすいかを見たが、数学においては『東京書籍』と『日本文教出版』が、学習課題が分かりやすかった。他の会社は表現が難しいと感じた。特に算数・数学が苦手な子にとっては、何をすればいいのかが難しいのではないと思う会社が多かったと感じた。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。
- (佐間田委員) 私も『東京書籍』が一番良いと思った。中学生になると、勉強が嫌いな子は、なぜ勉強をしなければならないのか、何の役に立つのか、と思うことがあると思うが、学習内容が日常とつながっているところが分かりやすかった。また、何のために何を学ばなければならないのかということがはっきり出ているところが良かった。
- (熊田委員) 『数研出版』には数学の探求ノートが付いているが、これについて委員会や調査委員からコメントはあったか。
- (土田指導主事) 調査員も2部構成になっていることに注目しており、特に巻末に学びの自己評価が設定されているということが取り上げられていた。こちらは、本冊の巻末という報告を受けている。分かれていることで、自分で学ぶ力をチェックしながら進められるという良さを報告を受けている。
- (熊田委員) 『啓林館』は、最初後ろ側から読んで、今回は横型になったのかと思ったが、このことについて調査員から意見はあったか。
- (土田指導主事) 外観について意見は出なかったが、問題を解決する手順が3段階に分けて例示されているというところが分かりやすいという意見が出ている。
- (池澤教育長) 協議に入る。意見等はあるか。
- (熊田委員) 『東京書籍』は、日常に密着しており好感は持てるが、少し物足りない気持ちもある。教科書なので、苦手な子も読みやすいということは良いことだと思ったが、『啓林館』は、反対から読むと、復習や発展問題があり、普通に読むと物足りなさを感じる子や心配な子は、反対からも進めるということで、その着眼点としては良いと思った。
- (石嶋委員) 苦手な子を中心に考えてしまうので、さらに発展させていきたいという子に対してはどのように対応していくのかという部分がこれから必要になってくるかもしれない。
- (熊田委員) QRコードは各社全てに付いていて、動画を見慣れている今の子どもたちが楽しく学べるように、視覚的工夫が見られて良かった。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「理科」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「理科」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・巻末のペーパークラフトのように学習内容の理解を助ける工夫がなされている。

○『大日本図書』の教科書について

・文章が短くまとめてあり、未習や読み間違いやすい漢字にルビがふつてあるなどの配慮がなされている。

○『学校図書』の教科書について

・1単位時間毎に「この時間の課題」「この時間のまとめ」といった記載があり、生徒が見方・考え方を意識して取り組むことができる。

○『教育出版』の教科書について

・日常生活における身近な事象が取り上げられており、単元での学習内容と日常生活を関連づけて理解できるよう工夫されている。

○『啓林館』の教科書について

・系統的に小学校、中学校、高等学校の学習内容が取り上げられており、つながりを意識して学習に取り組むことができるよう工夫されている。

以上の報告を受けて、『啓林館』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

・系統的に小学校、中学校、高等学校の学習内容が取り上げられており、つながりを意識して学習に取り組むことができるよう工夫されている。

協議においては、数学で未学習の計算方法が理科の学習で出てくることがあるが、教科書によっては計算方法が脚注にあり、生徒にとっては助けになるのではないかということや、身近な事象を使って、理科の学習を深めようという視点が伺えること、また、掲載されている写真がリアルであるため、苦手な生徒には抵抗があるのではないかという意見が出された。

(池澤教育長) 質疑等はあるか。

(石嶋委員) 内容を盛りだくさんにするためか、教科書のサイズが幅広であったり、A4より大きめであったりするので、カバンに入れるにはバランスが悪いと思った。そのことについて調査員の方から何か意見はあったか。

(土田指導主事) 調査員からは、今使っている教科書よりもサイズが大きくなった出版社があるという調査報告が出ている。反面、イラストや写真が見やすく、豊富に掲載されていることから、この大きさになるのであろうという報告になっている。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。

(熊田委員) 『啓林館』は前回、別冊マイノートが付いていたと思うが、なくなったことについて調査員から何か意見はあったか。

(土田指導主事) 今回、別冊マイノートがなくなったことについては、調査報告には挙がっていない。その代わりに、小中高の系統性や、理科の教科の枠を越えた横断的な学びの部分が充実しているという報告がされている。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
では、意見等はあるか。

(石嶋委員) 学習課題についてであるが、『東京書籍』の課題の表現が分かりやすいと思った。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(熊田委員) QRコードについて各社工夫されているが、『啓林館』の顕微鏡の使い方がとても分かりやすかった。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(熊田委員) 『学校図書』の最後のところに、学びの交換アイデアボードというホワイトボードが付いており、話し合いをする時に使えるので、良いアイデアだと思った。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「音楽」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「音楽」】

音楽一般については、各社の特筆すべき点として「世界や郷土の音楽についての取扱い」が挙げられた。

○『教育出版』の教科書について

・1・3年でアジアの音楽・芸能、2年で郷土の音楽・芸能を扱っている。

○『教育芸術社』の教科書について

・3年間を通してアジアから世界へと広がり、郷土の音楽は、民謡・祭り・芸能の知識理解から伝承の現場の理解へとつながっている。

器楽・合奏については、各社の特筆すべき点として「打楽器の取扱い」が挙げられた。

○『教育出版』の教科書について

・5種類の打楽器を巻末資料に掲載し、ソロやアンサンブルの楽曲を多く掲載している。

○『教育芸術社』の教科書について

・打楽器を1つのユニットとして取り上げ、15種類の楽器を掲載している。

以上の報告を受けて、音楽一般・器楽合奏ともに『教育芸術社』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

・定番曲と新曲をバランスよく織り交ぜながら魅力的な題材を用いている。

・世界や郷土の音楽、国歌、打楽器の取扱いから、音楽文化を解釈するにあたり多くの切り口を提示している。

協議においては、変声期についての記述や、ラップが掲載されているなど、意外な切り口から音楽に興味をもてるよう工夫されていることや、様々な分野の音楽を取り入れるという視点で、教科書が編成されていることが挙げられた。

(池澤教育長) 質疑等はあるか。

曲目について、両社の比較等で意見はあったのか。

(土田指導主事) 定番曲と新曲がバランス良く挙げられており、題材が大変魅力的であるという点が報告されている。子どもたちが音楽嫌いにならないために、馴染みやすい曲や日本の美しさとして残したい曲等、幅広く扱われているところから、音楽を愛好する心情を育てるという配慮が、両社ともなされているということが挙げられている。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)

では、意見等はあるか。

(熊田委員) 変声期の取扱いは両社ともあったが、『教育芸術社』がとても丁寧で、変声期は自然なことであると安心させることが、よりしっかり書いてあることに好感が持てた。

(池澤教育長) 「器楽・合奏」について意見等はあるか。

(熊田委員) 『教育芸術社』にバンドのことが載っている。また、楽器の順番で、『教育芸術社』はギターが2番目に載っていることが印象的であった。バンドやギターやロックに興味を持つ時期であると思うので、皆が持っているリコーダーの次にギターが載っているところに好感が持てた。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(佐間田委員) 『教育芸術社』は、子どもたちが耳慣れた曲や歌える曲が載っているので、興味を引くと思う。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「美術」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「美術」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『開隆堂出版』の教科書について

- ・作者や作家の写真が解説と共に掲載されている。
- ・キャリア教育に役立つ資料として、様々な分野で活躍する人材を取り上げるページが設けられている。

○『光村図書』の教科書について

- ・学習活動の「目標」が表現と鑑賞に分けて2つずつ提示されている。
- ・書き込みができるように、トレーシングペーパーを綴じ込んだり、本物の風合いで鑑賞できるよう紙質を変えた図版を掲載したりして、生徒が実感を伴いながら学習できるよう工夫されている。

○『日本文教出版』の教科書について

- ・最初の見開きのページから生徒の興味・関心を引く魅力的で迫力のある作品を掲載するなど、作品をより大きく掲載し、見やすいレイアウト

トになっている。

- ・実際の図版を折って、立てて鑑賞することで作者の制作意図に触れたり、実感を伴って技法を理解したりできるような工夫がされている。

以上の報告を受けて、『日本文教出版』が教科用図書として選定された。
<選定の理由>

- ・原寸大作品を掲載したり、作品をできるだけ大きく掲載し、興味・関心を引いたり、新鮮な感動を呼び起こしたりするために効果的である。
- ・3学年の発達段階に応じた内容が、3分冊構成でより適切に取り扱われている。

協議においては、子どもたちに馴染みのあるマンガや絵本などから抜粋した絵も多く掲載されていること、色彩豊かな絵本作家の絵も掲載されていること、固定されたイメージではなく、自由に自画像を描くことも認められる構成になっているなどの意見が出された。

- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (熊田委員) QRコードでアピールしているところがあったが、委員会や調査員の中で、その内容についての協議はあったか。
- (土田指導主事) 委員会では、QRコードについて話題には挙がらなかった。
調査員からは、QRコードの掲載の調査について、そして、実際に子どもたちが実感を持って鑑賞できるような資料になっているかという研究をしたという報告を受けている。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。
先程、石嶋委員から、教科書の大きさについて質問があったが、美術の教科書の大きさについて質問はないか。
- (石嶋委員) 美術は学校に置いておけるので、問題ないと思う。
- (佐間田委員) QRコードは、実際に授業で使うのか。
- (土田指導主事) 現在、1人1台の端末はないが、現場の教員がICT機器を活用した授業を実践しているので、教室のテレビに映して見せて授業で活用できる。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
では協議に入るが、意見等はあるか。
- (永山委員) 『日本文教出版』は、印刷の技術が非常に素晴らしい。美術Iに「燕子花図」が見開きで載っているが、これだけ大きな物で見られることは、非常に贅沢な造りになっている。鑑賞の面で、非常に優れていると思った。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。
- (熊田委員) 3社とも見たが、『日本文教出版』は、心臓を鷲掴みにされるような綺麗さで、構成も良いと思った。各社QRコードで見られるようになっていくが、『日本文教出版』だけが、QRコードを読み込むと、すぐに画像が飛び込んでくるようになっており、他2社は、初めにインデックスが出てくる。『日本文教出版』は、まず画像で興味を持つことができ、作品を360度様々な角度から見られる。『光村図書』も様々な角度から見られるが、動

画である。『日本文教出版』は、自分で動かすことができるところが良い。ページ数が多く、構成が良いためか、見ていて楽しかった。

(池澤教育長)

他に意見等はあるか。

(石嶋委員)

学習指導要領解説によると、美術の時間は、1年生は1年間に45時間、2・3年生は35時間で、週に1回しかない。美術では、全部を教えるというよりは、先生が子どもたちに説明を行ったり、イメージを育てたりするために、教科書を資料的に使うと思うので、永山委員がおっしゃったように、写真が良く出ていることが重要になってくると思った。

(永山委員)

『光村図書』の、トレーシングペーパーで消失点を書かせるということも良いアイデアである。どこの会社も工夫している。

(石嶋委員)

問題は、授業時間が少ないということである。

(熊田委員)

『光村図書』は、ルネ・マグリットの「大家族」が入っているところが、栃木県的には良いと思った。

また、賛否両論あると思うが、『光村図書』は、芸術と道徳をつなげていることも良い視点であると思った。

(土田指導主事)

続いて中学校教科用図書「保健体育」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「保健体育」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・教科書に直接書き込むことができる箇所を多数設けており、学習したことを自分なりに整理し、深く考えながら取り組めるよう工夫されている。

○『大日本図書』の教科書について

・スマートフォンの普及により、一層求められている情報活用能力や情報モラルについて取り上げられており、自分たちの生活との関わりについて理解できるよう配慮されている。

○『大修館書店』の教科書について

・生涯において、国民の2人に1人がかかると推測されるがんについて、その種類や特徴、予防の重要性に加え、健康診断にも触れるなど、多くの資料を活用して詳しく学習できるよう工夫されている。

○『学研教育みらい』の教科書について

・他教科との関連についても理解できるように「キーワードで見る保健体育の学習内容」というページに一覧としてまとめられている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・カラー写真やイラストを多く掲載し、生徒の興味・関心を引くように見やすく編集されている。
- ・章末資料には、今日的な話題や写真も多く取り上げられている。

協議においては、委員より QR コードの掲載の有無について質問が出され、全社とも掲載があり、スマートフォンなどの端末から資料や動画を自

分達で見ることができるとの回答があった。

- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (熊田委員) **QR** コードは全社付いていたか。
- (土田指導主事) 調査員からは、各社とも付いているという報告を受けている。『東京書籍』については、二次元コードという表記で入っている。
- 報告書 49 ページをご覧ください。『大修館書店』については、「WEB 情報館」として、関連する情報がリンクされているという形で掲載されている。
- また、報告書 47 ページ『東京書籍』については、「D マーク」というマークが示されている箇所が、インターネットを活用して動画を見ることができる印となっている。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。
- では意見等を伺いたい。
- 感染症に対して、調査員で何か特別に取り出して比較したということはあるか。
- (土田指導主事) 新型コロナウイルス感染症についての掲載は見られないものの、インフルエンザや、今まで話題となった感染症についての取扱いがあるとの報告を受けている。
- (池澤教育長) どの教科書も、感染症とその予防について書かれているが、それらの比較はないのか。
- (土田指導主事) 取扱いの確認となっている。
- (熊田委員) 感染症に関しては、『大修館書店』が一番丁寧であると思った。不織布のマスクの穴と、花粉やウイルスの大きさとの比較、また、なぜマスクを着けるのかが書いてある。
- 『東京書籍』については、マスクについては賛否両論があり、新型コロナウイルスによってマスクの重要性が謳われるようになったが、最初は WHO もマスクは必要ないと言っていたこともあり、しっかり取り上げにくかったのではないかと思う。
- 各社とも、手洗いをする等の一般的なことは記載されていた。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。
- (熊田委員) 心肺蘇生法や AED の使い方は、**QR** コードで動画が見られるので、分かりやすい。通学の途中でそのような場面に出会う可能性もあるので、授業で習うだけでなく、自分で学習できることは良いと思った。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。
- (佐間田委員) 初めは『大日本図書』が良いと思っていた。子どもたちからすると、保健体育はおまけのような存在で、国語や数学からすると距離のある教科であると思う。『大日本図書』は、導入が部活動と食育から始まっているので、入りやすく、トピックスも他の教科書と違うものが入っていて面白いと思った。食育について、学校で推してはいるが、取り組みづらい。子どもが部活動の先生に、体を鍛えた後にとると良い食べ物を教えてもらった時から、栄養素を気にするようになったので、入口として良いのではないかと思った。

- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。
- (石嶋委員) 保健の時間が1年間で何時間あるのか確認したところ、3年間で48時間、1年間で16時間、約90時間は体育の実技と理論が入っていて、教科書見開き1ページが1時間という扱いになる。数学や理科は、直接生活と結びつけることが大変なので、いかにも生活と関連させるために色々なことをしているが、家庭科や保健体育は、生活や生き方に直接つながってくる教科なので、各社とも様々な工夫をしていると思った。子どもの実態に応じて、先生方がどう判断したかであると感じた。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。
- (熊田委員) 各社、ストレスに対する対処や心の健康に対しても力を入れていると感じた。中学生は多感な時期で、心も揺れやすいと思うので、工夫や気遣いが見られた。
- (池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)
- (土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「技術・家庭(技術分野)」の選定結果について報告を行う。
【中学校教科用図書「技術・家庭(技術分野)」】
各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。
○『東京書籍』の教科書について
・多様な題材を取り上げ、生徒の興味・関心に応じた製作品に取り組むことで、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。
○『教育図書』の教科書について
・安全に留意する内容について「安全マーク」を設け、安全に作業を進められるよう配慮されている。
○『開隆堂出版』の教科書について
・のこぎりの原理を説明した図のように技能の根拠となる科学的な原理や仕組みなどの理解を深めるため、拡大写真やイラストが効果的にレイアウトされている。
- 以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。
<選定の理由>
・学習する内容や目標が生徒にとって把握しやすい工夫がされている。
・社会で活躍している技術に携わる人のコラムやコメントが掲載され、日本の技術について興味・関心が高まるよう配慮されている。
- 協議においては、委員より安全面の配慮について質問が出され、各社において安全マークなどの記載があるとの報告があった。
また、のこぎりの使い方についても掲載されており、昔の人の知恵や良さなども残しながら学習できるように工夫されているなどの意見が出された。
- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (熊田委員) プログラミングについては、各社とも取り扱っていたと思うが、そのこ

とに関する協議では、どのような意見が出されたか。

(土田指導主事) 当日の教科用図書選定委員会では、その点についての協議はなかった。事前の調査員の研究の中では、各教材が適切に配置されていることが報告として挙げられている。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
では協議に移るが、意見等はあるか。

(石嶋委員) 調査員の先生方で、技術の先生は市内で何名いるのか。

(土田指導主事) 下野市内では、2人である。

(熊田委員) 最初の見開きのところが、『東京書籍』が一番良いと思った。テクノロジーの雰囲気があり、エンジニアを目指したいという子どもも、ここから目標ができてくるような感じがある。

『東京書籍』は、他の教科も共通してくると思うが、教科書の構成のところが分かりやすい。また、学習の進め方に関しては、『開隆堂出版』も、4コマ漫画で分かりやすく描かれていて、良いと思った。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(熊田委員) 『教育図書』には、技術ハンドブックが別に付いていて、ここでまとめて工具の使い方を学習できるので分かりやすく、さらにQRコードで使い方動画が見られるところが、丁寧で分かりやすいと思った。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「技術・家庭(家庭分野)」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「技術・家庭(家庭分野)」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・教科書の冒頭に14ページに渡ってガイダンスを設けており、3年間の学習を見通せる工夫がされている。

○『教育図書』の教科書について

・調理実習での失敗例からその理由を考えさせたり、同じ調理内容のレトルト食品や冷凍食品を掲載したりすることで、問題解決的な学習を促す工夫がされている。

○『開隆堂出版』の教科書について

・「調理方法 Q&A」の欄が設けられており、「なぜ塩を入れ混ぜる」工程があるのか科学的根拠を具体的に示している。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・基礎・基本の知識や技術の習得の工夫がされており、発展的な学習も充実している。
- ・実習例や手順、資料等が豊富な写真を活用し、分かりやすく示されていることで、生徒の関心を高め意欲的に学習に取り組むことが期待される。

協議においては、委員から、安全性の配慮について質問が出され、各社とも調理実習等では衛生面について、被服分野についても安全面に配慮する記載があったとの報告があった。

(池澤教育長) 質疑等はあるか。
各社で、防災について取り上げていたが、そのことについて委員会や調査員から指摘はあったか。

(土田指導主事) 当日の委員の協議では、特に出ていなかったが、調査報告書には載っている。『東京書籍』は54ページ、『開隆堂出版』56ページである。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
では協議に移るが、意見等はあるか。

(永山委員) 消費生活の問題が家庭科で取り上げられていることは、非常に良いことである。社会に出ていくうえで、お金の問題で苦労している方が多いので、日々のお金の管理や落とし穴等、消費者目線の教育を中学生のうちからしていくことは素晴らしいと思う。家庭科は生きていくための知恵を学ぶ学習なので、非常に素晴らしいことである。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(熊田委員) 『教育図書』も、222、223ページで防災について取り上げている。『東京書籍』は、防災減災手帳でまとめているので、分かりやすく良かった。

また安全衛生注意についても、各社載っているが、『東京書籍』はまとめて載せているので、分かりやすいと思った。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(熊田委員) 家庭科の調理のところで、食品分析表の記載があるが、『東京書籍』には、手測り・目測りというものが載せてあり、印象的であった。実生活で食品分析表を使って計算するのは栄養士ぐらいであり、糖尿病の患者でも目測りで生活していると思う。大人になってからは、目測りで大体のカロリーを頭の中で計算するほうが実用的なので、導入されているところが良かった。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。

(石嶋委員) どの会社も充実している。問題は、技術と家庭科併せて70時間、3年生になると併せて35時間しかないので、指導をする側は、時間的に厳しいと思う。教科書を学ぶだけでなく実習がメインになると思うので、大変だろうなと思った。

(佐間田委員) 教科書はくまなく見るのか。

(石嶋委員) 教科書を全ておさえていると実習の時間が無くなってしまうので、年間指導計画に従って、資料的に利用するのではないだろうか。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「英語」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「英語」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

- 『東京書籍』の教科書について
 - ・ペアやグループで互いに知っていることを紹介し合ったり、友達と意見を交換したりすることを通して、思考を深められるよう配慮されている。
- 『開隆堂出版』の教科書について
 - ・本文の内容を自分の言葉で伝える言語活動を継続して行うことにより、自己表現能力を高められるよう配慮されている。
- 『三省堂』の教科書について
 - ・自己表現をしたり、相手と意見交換をしたりするコーナーが設定されており、2, 3年生ではディスカッションを通して、英語で意見を伝え合う力が養われるよう配慮されている。
- 『教育出版』の教科書について
 - ・コミュニケーションの場面に応じて、表現を考えたり、内容を膨らませたりするなど、表現の幅を広げることができるよう配慮されている。
- 『光村図書』の教科書について
 - ・教科書の本文において、主人公4人の中学校生活が一貫したストーリーとして扱われており、実際の学校生活と重ねて学習を進めることで、生徒の意欲を高め、かつ実践的なコミュニケーションにつながるよう工夫されている。
- 『啓林館』の教科書について
 - ・「ハラル・フード」、「地域活性化」、「ご当地キャラクター」など現代社会を反映した新しい視点の話題が多数取り上げられ、生徒の興味・関心を高め、かつ広い視野で物事を考えることができるよう工夫されている。

以上の報告を受けて、『東京書籍』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

- ・段階的に言語活動を行い、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて適切に語句や表現を用いる知識と技能が身につけられるよう工夫されている。

協議においては、委員から、小学校からの接続について小学校採択の教科書会社と異なっても問題ないか質問が出され、東京書籍では小学校で学習した単語については印があること、3つのレッスンが全て小学校で取扱いのある内容であることから、小中学校で異なっても問題ないとの報告がされた。

(池澤教育長)

質疑等はあるか。

(佐間田委員)

今使用している教科書はどここの教科書か。

中学校では、『開隆堂出版』、小学校では『教育出版』の教科書が使われている。

(池澤教育長)

他に質疑等はあるか。

文字の大きさについて調査員から意見は出たか。
(土田指導主事) 文字の大きさについては調査で扱っていないが、小学校で英語が教科として入ったことから、小学校との接続に違和感がないかという点を重視して調査した。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
では、意見等はあるか。
全社教科書の名前が異なるが、そのことについて調査員から意見は出たか。

(土田指導主事) 教科書名についての直接的な意見は出ていなかった。

(池澤教育長) 他に意見等はあるか。(特になし)

(土田指導主事) 続いて中学校教科用図書「道徳」の選定結果について報告を行う。

【中学校教科用図書「道徳」】

各教科書会社の特徴として報告されたものは以下のとおり。

○『東京書籍』の教科書について

・いじめの問題について、間接的な教材、直接的な教材が連続して取り扱われ、2時間連続して指導することにより、いじめのない社会にするための道徳的価値を高める工夫がされている。

○『教育出版』の教科書について

・各教材に「導入」と「学びの道しるべ」のコーナーが設けられており、これまでの経験やこれからの生き方について考えられるようになっている。

○『光村図書』の教科書について

・学びのてびきとして、「考えよう」、「見方を変えて」、「つなげよう」の3つの視点から道徳的価値について考えられるよう示されている。

○『日本文教出版』の教科書について

・道徳ノートの活用により多様な指導方法が可能になる。

○『学研教育みらい』の教科書について

・学んだことを日常生活と関連づけて考えるよう配慮されている。

○『廣済堂あかつき』の教科書について

・「中学生の道徳ノート」を授業の導入や終末などに活用することにより、効果的にねらいに迫ることが期待できる。

○『日本教科書』の教科書について

・恋愛や性的マイノリティなど現代社会での課題を取り上げ、生徒の興味・関心に応じながら問題解決できるよう配慮されている。

以上の報告を受けて、『日本文教出版』が教科用図書として選定された。

<選定の理由>

・「道徳ノート」を活用することで多様な指導方法を取り入れたり、生徒に自身の成長を実感させたりすることができる。

協議においては、「道徳ノート」を用いることの良さの反面、思考の幅を狭めてしまうという弊害もあることや、読み物教材の題名とあわせて主

題名が表記されている教科書とそうでない教科書があり、中学生の発達段階を考慮すると主題名は書かれていないほうが望ましいのではないかという意見が出された。

- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (熊田委員) 道徳のノートは、『廣濟堂あかつき』にもあったと思うが、その比較について調査員から意見は出たか。
- (土田指導主事) 『日本文教出版』においては、教科書と連動しており、「自分にプラスワン」というコーナーで自分を振り返る発問がなされ、子どもたちが自分のこれまでの生活を振り返りながらこれからの生き方を考えるという活動を取り入れ、現在も『日本文教出版』を使っており、「自分にプラスワン」を上手く活用しながら、子どもたちに自己有用感を持たせることができるのではないかということで、ノートの比較を行ったと報告があった。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。
- 調査員からは、道徳のノートの有無の良し悪しはどのように報告されているか。
- (土田指導主事) 調査員の意見としては、道徳のノートがあることで、多様な授業展開が期待される点が挙げられている。理由として、道徳のノートを導入で用いたり、章末で用いたり、あるいは問題解決的な学習を取入れる中で活用していくということが挙げられている。
- また、道徳のノートについては、1時間ごとに全ての欄に記入するのではなく、状況によって教師が作成したワークシート等も活用することで、多様な組合せを使いながらこのノートを活用できるのではないかという意見があり、候補として推薦している。
- (池澤教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
- では協議に入る。意見等はあるか。
- (石嶋委員) 道徳ノートといっても、『日本文教出版』も『廣濟堂あかつき』も、学習内容のメモ欄というようなノートであり、発問が書いてある作業用紙的なものではないので、授業を行う側がそれほど制限されるものではないと思った。
- (永山委員) 思考の順番を決めて、ゴールに導き入れるようなノートでは困ると思ったが、これを見る限りそのような弊害はないと思う。テーマについては、最初に「この章はこれを学ぶ」というように書かれているものは好ましくないと考えている。
- (熊田委員) 2年前に選定した際、永山委員が、『廣濟堂あかつき』は少し押しつけになっているということをおっしゃっていたのが印象的で、ノートを使うのであれば、『日本文教出版』の方が、自由度が高いと思った。
- (永山委員) 『廣濟堂あかつき』の道徳のノートについては、非常にまずいと思った。例えば12ページの「法や決まりを守り規律ある社会を作る」という部分は、有無を言わず、こうだというだけで、守らなければいけないというようなことが書かれていて、思考の幅を狭めてしまい自由な発想ができなくなる。
- 『日本文教出版』はノートの空白が多いので、先生方が自由に使えると

思った。

(石嶋委員) 教科書によっては発問がいくつも書いてあり、子どもがそれを読んでしまうと、これに答えれば良いと思ってしまう道徳になる恐れがあるので、クラスの実態や世の中の状況に応じて考えてもらう資料として使ってもらうことを考えると、発問がたくさん出ていないほうが良いと思った。

(熊田委員) 思春期で色々な気持ちはあると思うので、押し付けになるのは良くないことである。かえって発問に反発することがあるので、自由度が高い方がよいと思う。できるだけ多様性を引き出せる授業にしてほしい。

(永山委員) 道徳の教科化自体、同意が少ない中で制度化されてしまったということを考えれば、そのような中で使う教科書は、それなりに節制した事情を十分に考えたうえで、制約のうえで使ったほうが良いと思う。決して諸手を挙げて国民が皆でやるべきだと言って道徳が教科化になったわけではないと思うので、そのような事情も含めて我々は考えなければいけないと感じている。

(池澤教育長) 他に質疑等はあるか。

(佐間田委員) 道徳の授業の時間に、先生がプリントを刷ってくださって、違う物を学習しているということを知ったが、道徳の教科書は網羅するものなのか。

(土田指導主事) 学習指導要領で定められているものは、内容項目なので、1年間あるいは3年間で決められた数を実施していくことになる。その扱いは教科書によって異なっており、ウエイトが変わってくる。また、道徳は特別の教科と言われるように、教材については工夫が求められているため、例えば、教員がこの教材を使って考えさせたいというものがあれば、その教材の開発なども学習指導要領の解説に書かれている。

(池澤教育長) 他に質疑や意見等はあるか。(特になし)

それでは、これより採決に移りたい。採決の内容については非公開となるため、教育長と教育委員は別室に移動する。

(教育長・教育委員が一旦退出する。)

【採決 非公開】

(ここで会議の非公開を解く。)

(池澤教育長) 議案第25号「令和3年度下野市立小中学校教科用図書採択について」は、本日上程された原案のとおり、採択したことを報告する。

・令和3年度使用小学校特別支援学級用教科用図書の新規採択一覧

科目	書名	発行者名
英語	わくわくチャレンジえほん えいごめいろ24	チャイルド本社
道徳	おやくそくえほん はじめての「よのなかルールブック」	日本図書センター

・令和3年度使用中学校特別支援学級用教科用図書の新規採択一覧

科目	書名	発行者名
道徳	もうもやもやしない！気持ちの伝え方	日本図書センター

・令和3年度使用中学校教科用図書の採択一覧表

科目	書名	発行者名
国語	現代の国語	三省堂
書写	新しい書写	東京書籍
社会 (地理的分野)	新しい社会 地理	東京書籍
社会 (歴史的分野)	新しい社会 歴史	東京書籍
社会 (公民的分野)	新しい社会 公民	東京書籍
地図	中学校社会科地図	帝国書院
数学	新しい数学	東京書籍
理科	未来へひろがるサイエンス	啓林館
音楽 (一般)	中学生の音楽	教育芸術社
音楽 (器楽合奏)	中学生の器楽	教育芸術社

美術	美術1 美術との出会い 美術2・3上 学びの実感と広がり 美術2・3下 学びの探求と未来	日本文教出版
保健体育	新しい保健体育	東京書籍
技術・家庭 (技術分野)	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	東京書籍
技術・家庭 (家庭分野)	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	東京書籍
英語	NEW HORIZON	東京書籍
道徳	中学道徳 あすを生きる	日本文教出版

以上で、議案第25号を終了とする。

続いて、報告事項に移ることを告げる。

(清水教育次長)

(1) 令和2年第2回市議会定例会の報告について、説明を求める。

【説明要旨】

「令和2年第2回下野市議会定例会会期日程」及び「令和2年第2回下野市議会定例会一般質問通告一覧」等の資料に基づき、定例会の日程及び教育委員会に関連する一般質問と答弁内容について説明を行う。

【説明の概要】

○教育委員会事務局に関連する議案

・議案第27号 令和2年度下野市一般会計補正予算(第2号)

(東京オリンピックが来年度に延期されたことから、本年度実施予定であった高藤直寿選手の壮行会やパブリックビューイング等の経費645万3千円を減額。これらの経費は、来年度に計上される。)

○一般質問について

通常の議会では質問時間が1人60分以内とされているが、新型コロナウイルス対策として、1会派から2名を挙げて1人30分、会派に属していない議員は1人20分という制限が設けられている。

坂村議員：コロナに打ち勝つ下野市政策

・臨時休業による児童生徒の学力低下や心身への影響に対する認識や対策について

相澤議員：小学生・中学生に対する新聞の配布について

・配布の回数について

(池澤教育長)

質疑等はあるか。

(佐間田委員)

配布されるのは下野新聞か。

- (池澤教育長) そのとおりである。
- (佐間田委員) 曜日によって子ども向けの記事が出る日があるが、そのような記事は子どもの興味を引くと思う。
- (池澤教育長) 続いて(2)下野市立南河内小中学校建設工事の契約について、説明を求める。
- (近藤教育総務課長) 下野市立南河内小中学校建設工事の契約が、7月8日の臨時議会で承認された。以降、資料に基づき工事の契約内容について説明を行う。
- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (佐間田委員) テニスコートはなくなるのか。
- (近藤教育総務課長) 中学校の北側にあったが、工事によって現在は使用できなくなっている。南河内体育センターの南側のテニスコートを拡張して使用していただく方向で考えている。
- (若林スポーツ振興課長) 現在、南河内体育センターのテニスコートは2面あるが、テニスコートの東側が田んぼになっているため、その一部を買い上げて4面分拡張して、全体で6面使用できるように考えている。現在、用地交渉を行っており、今年明けに設計・測量を行いたいと考えている。
- (永山委員) 新たに造るテニスコートは、中学校専用になるのか、一般の方も使えるようになるのか。
- (若林スポーツ振興課長) スポーツ振興課で整備するため、一般の方も使える。時間帯によって部活動で使っていて、空いている時間を一般の方に開放する。
- (池澤教育長) 続いて(3)下野市部活動の方針 修正について、説明を求める。
- (田澤学校教育課長) 「下野市部活動の方針」の資料に基づき、修正箇所の説明を行う。意見等がある場合は、後日承る。
- (池澤教育長) 続いて(4)修学旅行について、(5)運動会の実施について、(6)文化祭の実施について、続けて説明を求める。
- (田澤学校教育課長) 「修学旅行参加者数調査」の資料に基づき、市内各小中学校の修学旅行の期日や方面、参加率について説明を行う。
- (石嶋委員) 新幹線で行くのか、バスで行くのか教えていただきたい。
- (田澤学校教育課長) 中学校の奈良・京都方面は新幹線で行くが、青森方面は確認させていただく。小学校は、ほとんどがバスである。
- 運動会実施の簡素化および日程について説明を行う。
- 小学校は学習発表会を予定していた時期にずらしたため、学習発表会は中止となっている。
- (池澤教育長) 文化祭についても、資料のとおりということによろしいか。
- (田澤学校教育課長) そのとおりである。
- (池澤教育長) 質疑等はあるか。
- (熊田委員) 時間短縮で行うところが多いが、代休は1日取るのか。
- (田澤学校教育課長) そのように伺っている。
- 国分寺小学校は大規模校のため、地区を分けて2日間で半日ずつ実施する。先生方は併せて1日で代休を取る。
- (池澤教育長) その他、連絡事項等はあるか。
- (田澤学校教育課長) 「新型コロナウイルス感染症 学校における対策マニュアル(第2-1

版)」について説明を行う。

臨時校長会で意見をいただきながら作成したものである。下野市内の小中学校で、新型コロナウイルス感染症に対してどのような対策をとっていくかという指針となるマニュアルを市で作成し、臨時校長会で意見をいただきながら修正を行ったものである。

国や県から出ているマニュアルを参考に、下野市の実情に合わせて内容を整理している。

(永山委員) 保健所からの通知は個人情報のため、取得できないということだが、ある学校から感染の疑いが出たときの PCR の検査結果は分かるのか。

(池澤教育長) 検査結果を知ることはできない。

(永山委員) 保護者が自由意思で学校に知らせたときに、はじめて分かるということか。

(池澤教育長) そのとおりである。

(永山委員) そうすると出だしが遅れる可能性がある。

(池澤教育長) そのため校長には、保護者と連絡を取る体制をしっかりとしておくように伝えている。

(熊田委員) 該当校の休みが最長 2 週間と書いてあるが、小山市は 2 日間だけであった。

(池澤教育長) 濃厚接触者がいなかったため、2 日間であった。本市も最長 2 週間であるが、場合によっては短くなることもある。感染者が出た場合は、学校を消毒後、保健所の指示を仰ぐことになる。

(熊田委員) あまり休業期間が短いと、発症者が特定されて、差別の原因にならないか心配する声がある。

(池澤教育長) 本市は、最長 2 週間ということで、配慮していきたいと考えている。

その都度情報をお伝えさせていただくので、教育委員の皆様にもご意見をいただきたいと思う。

次回の教育委員会は、8月20日(木)午後1時30分からの予定とする。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後4時30分閉会。